

優秀賞

中小企業区分

有限会社新門司建設

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	福岡県北九州市門司区大字猿喰 629 番地 10
業種	建設業
社員数	5名
受賞歴	2017 優秀賞
ウェブサイト	http://smk-eco21.com

SDGs と ESD を活用した建設業における 環境取組と男女共同参画推進の普及活動

取組の目的

私たちは、昨年度の「環境 人づくり企業大賞 2017」優秀賞を受賞したことにより、北九州市長・副市長へ表敬訪問をさせていただきました。その後、新聞社 2 社の取材を受けて、掲載されることとなりました。その結果、営業先で「新聞見たよ」「環境問題に積極的に取り組んでいて凄いね」との感想や、更には現場地域でお知り合いになった住民の方々に「ホームページ見たよ、立派な会社だね」「ハウスが綺麗だね」等と声をかけて頂けるようになりました。これらは環境に配慮し取り組む以前の私たちでは到底、想像すらつかない出来事であり、本当に大変貴重な体験をすることが出来ました。これらを踏まえて私たちはさらに、環境改善に積極的に取り組む事を決意し、下記六つの目標を立てました。

- ① 情報を共有できるよう毎朝の環境ミーティングを行う
- ② 二酸化炭素排出量の削減達成に取り組む
- ③ 環境や建設産業の現場環境改善として、様々なセミナーに参加し、知識を深め共有する
- ④ エコアクション21や SDGs の認知度アップを図り、弊社取組を地域の方々に知っていただく
- ⑤ 北九州市環境マスコットキャラクター「ていたん」(低炭素社会をイメージしています)を広める
- ⑥ 建設現場で働く女性の割合が低いことから、女性が働きやすい環境づくりに挑戦

昨年度の「③土木業者の視点における独自の現場環境改善として、転々とする現場地域において、地域学生向けの環境学習を行う」、においては諸事情のため実現はできませんでしたが、引き続き来年度に全員一致で挑戦する意向であり、現在計画中です。

特に、少人数ながら弊社の特徴として、建設業における女性監理技術者の在籍は北九州市中小企業において数少ない一企業のため、男女共同参画を推進し、広く普及するよう努めました。

取組の実績

主な取組内容

- ・ 毎朝 5 分のミーティングに加え、週 1 回のエコアクション21会議
全員参加(2017年12月1日～現在に至る)
- ・ エコアクション21 環境活動レポート(平成 29 年度)作成
全員参加(2017年6月1日～2018年9月10日)
- ・ 第 21 回 ジェンダー問題調査・研究報告 建設産業の男女共同参画推進実態調査
2名参加(会場 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 2018年7月13日)
- ・ 第 26 回 曾根干潟クリーン作戦 北九州市立曾根東小学校
4名参加(場所 北九州市小倉南区曾根干潟 2018年9月25日)
- ・ 北九州市 SDGs 未来都市キックオフイベント
3名参加(会場 リバーウォーク北九州市芸術劇場大ホール 2018年11月4日)
- ・ エコアクション21認証・登録事業者向けセミナー(平成 30 年度フォローアップセミナー)
1名参加(会場 コムシティ八幡西生涯学習センター 2018年11月16日)

成果・課題

上記「2 取組の目的」に対する評価(成果・課題)

- ① 2 年目となる毎朝の環境ミーティングを通して、何事も、どのような話題も、全て環境に繋がっていると実感しています。具体的には、毎朝の KY 活動のように円陣となり、旬の環境に関する話題や体験したことなどを各自、順にスピーチしています。特にルールを決めるわけでもなく、5 分間は思い思いの価値観で自由に発表、また、感想や問いかけを通して、得た知識や経験を共有することで環境コミュニケーションを図っています。話題が尽きた時は、弊社環境目標や SDGs の 17 の目標を読み上げたりして、僅かな時間ですが様々な情報交換が出来る時間となっています。

また、最近では弊社の SNS グループを新規作成し、そこでも知り得た情報や新しい情報を発信し、空いた時間に見ることで工夫しながら共有しています。決して強要せず、自由度が高いことが、長続きしている秘訣ではないかと思えます。

- ② 昨年度のエコアクション21環境活動レポートにおいて、目標達成に至らなかったため、今年度は達成したい気持ちを特段強く持っていたのですが、今年度のレポートにおいても未達成という残念な結果となりました。これは市の入札参加資格審査の等級が弊社のメイン業種でもある土木において、最上ランクに格付けされ大幅な工事規模の拡大によるものと認識しております。工事規模が拡大すると、どんな手立てを打って努力しようとも、必然的に二酸化炭素排出量もそれに比例増大します。

現在施工中の工事は、田畑に道路を新設する為、本来の主旨は渋滞緩和・CO₂削減・排気ガス減少と生活環境を整える事業であります。建設工事の捉え方は人それぞれであり、とすれば環境破壊と認識される場合もあります。このことを踏まえ、施工業者が環境を意識しているか、それとも全く意識していないかで、とても大きな違いが発生すると考えられるた

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

め、私たちは、環境に対して最善を尽くして施工していくことが、必要不可欠だと考えています。最善を尽くせば、同じ未達成でも全く意味が違うと思うのです。

- ③ 私たちは現場環境改善に重きを置いています。なぜなら、若者の建設業離れに歯止めがかからず、このままでは高齢化が進み、担い手不足、人手不足問題が一段と深刻化するためです。厚生労働省が発表する有効求人倍率の2018年8月実績(いずれも常用、除くパート・季節調整前)では、「建築・土木・測量技術者」は6.32倍(前年同期は5.68倍)、「建設・採掘の職業」は5.14倍(同4.22倍)となっています。これは前職業の1.42倍(同1.28倍)に比べて極めて高い水準にあり、かつ、前年同期比でも大きく上昇しています。また、国土交通省の資料においても、建設業界の就業者数は2007年の552万人から2016年には492万人に10年間で約1割減少しています。そのことを踏まえ会議した結果、北九州市が主催するセミナーにも参加し、多方面から知識を深め、広め、伝えようと活用することにしました。

7月に参加した建設業の男女共同参画推進実態調査結果では、大企業では男女共同参画社会が進んでいますが、中小企業では未だ男尊女卑の考えをお持ちの方が役員職の方に多く見られ、表向きは女性を受け入れたいとの意思表示をされても、実際本音としては即戦力にならず難しいとの考えを多数示していることを知りました。

また、11月に参加した北九州市SDGsキックオフイベントでは、北九州市のSDGs達成に向けた高校生や市内企業の取組を知ることができ、とても勉強になりました。

- ④ 昨年弊社建設現場において初めて、横断幕2種類「エコアクション21」(私たちは「人」と「地球」と「未来」に優しい環境づくりに取り組んでいます)「SDGs」(~2030年の世界目標~広めよう!!SDGs エス・ディー・ジーズ)を弊社オリジナルで作成しました。環境に取り組む前は考えられませんでした。今ではそれが当然のことになり、今現在も当該地域現場においてガードパイプに掲示しています。車両交通量が多く、散歩やランニング等もされている地域ですし、デザインから構想を練り作成したもので愛着もあり、一人でも多くの方に知って頂けると願っています。また、私たちも目にすることで活動が引き締まり相乗効果もあります。

それに加え、「平成30年度フォローアップセミナー北九州会場」においてエコアクション21認証・登録企業32社の前で登壇する機会をいただきましたので、「エコアクション21」は当然ご存知でも「SDGs」はまだ知らない方もいらっしゃるはずだと思い、僭越ながら少しでも皆様の環境力に貢献できたらとの思いでSDGsの紹介をさせていただきました。

- ⑤ 北九州市長・副市長への表敬訪問において、「ていたん&ブラックていたん」のぬいぐるみを贈呈されましたので、事務所カウンターにて、皆様をお出迎えしておりましたが、現場ハウスにも置くことにし



平成30年度フォローアップセミナー開催時における
事例発表

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

て、認知度アップを図りました。

また、「ていたん」は北九州市環境マスコットキャラクターであります。北九州市環境局総務制作部総務課に申請し許可が下りますと、どなたでも自由に使用できることを、北九州市にお住まいの方でもご存知の方が少ないと知り、上記④にもありますように、フォローアップセミナーにて弊社取組状況と申請許可方法を事例発表しました。初めての経験で緊張しましたが、どのようにしたら皆様に分かりやすく伝わるのか、何度もデモンストレーションを重ね、努力しました。発表後、数社企業が「ていたん」の活用方法を詳しく聞きに来られましたので、お役に立てたことで嬉しくもありました。

- ⑥ 女性が働きやすい建設現場づくりにおいては、これは男女とも関わることですが、まず「快適トイレ」です。弊社工事現場の女性トイレにおいては、鏡・更衣室・ハンガーフック・温水便座・洗浄液・音姫等が標準装備されていて、ショッピングセンターにも劣らない広さと快適さがあります。前回のトイレとは比較にならない快適さで、一般女性には当たり前の快適さでも、現場経験者女性に使用して頂くと、「こんなに綺麗なトイレは初めてです」と口を揃えて感激されていました。

そして、先程の現場ハウスでの「ていたん」もそうですが、カジュアルソファやクッションの設置、本棚には「読書の秋」と明示し、占い・ファッション雑誌、漫画や歴史本等、様々なジャンルの本を置いて作業員や警備員がリラックスできるように配慮しました。結果、警察署の職員2名が暴力排除運動で説明に来られた際、「ここは託児所があるのですか？」と質問されました。残念ながら託児所ではないのですが、まるで幼児がいても不思議ではない明るく開かれた空間が認められた結果だと感じ、嬉しく思いました。

また、皆で会議した結果、初めての取組として協力会社の事務職の女性数名に声をかけ、建設現場に興味を持ってもらえるよう「女性パトロール」を計画・実施しました。この結果、現場説明に加えてエコアクション21やSDGsの取組説明を行い、自ら得た知識を広め伝えることが出来ました。また男性職員の案で、「建設現場で働く女性を応援しています」とのメッセージ入りの桃色のダンプゼッケンを作成し、アピールしました。このように女性が働きやすい環境づくりにおいては、女性目線だけではなく男性社員からの案も多数取り入れ、全員で現場環境改善に取り組みました。



現場代理人による現場説明ののち
女性パトロールを実施

今後の改善

2016 年から取り組み始めた環境問題ですが、とても奥が深いことを知りました。はじめは、ただ二酸化炭素排出量を削減すれば良いだけのことだと軽い気持ちで認識していましたが、取組を続けていくうちに、建設業におけるあらゆる問題の全てが環境問題につながっていることに気付きました。

本来は、建設業の仕事は社会資本の整備や社会の安全・安心の確保を担うものです。また、国土保全のために必要不可欠な地域の守り手であるとも言えるのではないかと思います。需要があるにもかかわらず、人が集まらない、人気がない理由として、未だに 3K(きつい・汚い・危険)のイメージが強くある為だと思われます。厚生労働省の「毎月勤労統計調査」によると、2017 年度の総労働時間は、労働時間も全産業に比べて年間 342 時間も長く、その割に所得も低いです。また、建設業は天候に左右されやすい上、労働時間を制限した場合、工期の長期化やコストアップが避けられないという問題もあります。さらに、休みも取りづらく、作業がきつく危険も伴っているため若年技術労働者が定着しない原因だと考えられます。

これからは、建設業界において他業界に比べ遅れている「働き方改革」を進め、中小企業も率先して「i-Construction」を活用し、3K のイメージを払拭し、国土交通省も提唱しているスローガン「新 3K」(給料・休日・希望)の 3 つの K を目指し、高い給与と長い休日を取得できる職場環境に変えていき、希望が持てる産業にしていきたいと考えています。女性が増えると男性が増えると思うのです。私たちは微力ながら、若者と女性の就業を促進していきたいと考えています。そして、昨年度と同様、これからも弊社にとっての 2 つの柱であるエコアクション 21 と SDGs を伝え広めて参ります。

関連補足情報

環境活動レポート

<http://ea21.jp/list/pdfn/0011548.pdf>

審査委員会からの講評

昨年度の優秀賞受賞以降、さらなるステップアップを図ろうと努力されており、改善策も奏功している。社員 5 名の規模ながら、女性の働きやすい環境づくりを模索、実現していくことは、SDGs の取り組みとしても評価される。地域の様々な活動やイベントに積極的に出ていっていることも好ましく、建設業全体を環境面でも労働面でもより良いものにしていこうという思いが表れている。

取り組み自体は 2016 年からとまだ歴史も浅いが、これからの持続性が何より重要となる。スタート時の勢いを持続する段階から、同業他社での理解者の拡大、地域での連携を一步一步進めていくことを期待したい。